座談会

さくら会
SAKURAE

したいこと

司会「深坂のさくら祭りは、昨年まで、地元の自治会が主催してきましたが、今年から、さくら友の会が行うとしたら、どんな祭りにしたいか、何が出来るのかを自由に語っていただいて、その意見を企画に活かして行きたいと思います。よろしくお願いいたします。

福冨「八百名の桜のオーナーが自分の桜を確かめる機会になればと思います。祭りは感謝の気持ちを表すものですから、桜や自然に感謝し、小さくても納得できる祭りに出来たらいいなと思います。」

江原「組織力に見合った祭りにし、無理をしないところから始めた方が良いと思います。」

西川浩「スケッチ大会を開いて自然を静かに見ることを奨励したい。その場で審査発表できたらいい。」

津田「その件ですが、知ってる美術の先生に相談したところ、『その日に審査などというのは出来るもんじゃない。そんなに簡単に考えては、参加してくれた子どもたちに失礼な。おばはん何を考えとるか』と言われた（笑い）。一年も先になって表彰しても、本人達はもう居ない。優秀作品を発表する場所も適当なところが無い。」

西川浩「発表する場所は、森の家、銀行、郵便局、市の市民ボランティア支援センターなど相談したら展示してもらえると思う。」

司会「本件はまた、よく検討してもらいましょう。」

山田澄「ウォーキングをしたい。ゆっくり歩き、途中で桜の成長具合を観察したり、他にも何かできることをすればよい。」

山田一「無理をせず、長く持続できるものにしたい。年寄りが多そうなので、お茶会をしてもよい。お琴などもあったら良いと思う。」

西川和「ウォーキングして、俳句などを募集してはどうか。」

司会「吟行ですね。優雅ですね。」

城戸「オーナーが木の下で宴を開けたらいい。」

全員「現実を知らんのじゃないか？」（笑い）

城戸「フォトコンテストはどうですか？俳句だけでなく、和歌も入れてください。」（笑い）

道坂「ライオンズクラブの担当委員と言う立場で出席しています。予算のこともありますが、折角集まるので大花見大会に出来たらいいなと思います。」

「大花火大会と聞こえましたが？花火大会ですか？」（笑い）

「大花見大会です。」

大中「桜のネームプレートに書いてある文言を読むのが楽しい。それを集めて発表したらいい。」

上畠「さくら祭りと言うとやはり花見て一杯。飲んで運転してはやはりいけないですかねえ？（笑い）花を愛でながら飲むことができなければ、せめて食うことができればと思います。イカ焼等も欲しいですね（笑い）折角ですから川柳も追加して下さい。」（笑い）

殿井「楽しくてよかったなと言う祭りにしたいな。」

年光「桜の女王コンテストは金がかからないと思うが。」「賞品代にかかりますよ。」「女装コンテストですか？」「それでもいい。」（笑い）「それなら仮装コンテストですね。」

司会「賑やかにしたいのか？優雅にしたいのか？優雅にしたいのなら曲水の宴などは？」「盃を浮かべる流れから整備しなければならない？」「今年には間に合わない」（笑い）「夢ですね。」「優雅にというなら、写真撮影用十二ひとえを貸しますというのは？」

司会「賑やかにというなら、フリーマーケットなども。」

福冨「ターゲットを何処におくかと言うこともある。若者がターゲットならライブやよさこいソーランは？」「これは、人が集まりますよ。」

できること

司会「少し整理して現実的に何が出来るのかを考えていきましょう。先ず時間ですが、例年何時から何時までですか？」

福冨「十時から三時位までです。」

司会「八時から準備して、あと片付けもありますから、一応

新春座談会

ことしから深坂のさくら祭りを「さくら友の会」と「下関響灘ライオンズクラブ」が共同主催することになりました。

今年が初めですから、「したいこと」と「できること」を話し合っていただきました。

出席者

福冨征男（さくら友の会会長、実行委員長）
江原寛治（維持管理部会長）
西川浩子（事務局長）
津田和子（会員交流部会）
山田澄枝（会員交流部会）
山田一之（会員交流部会）
西川和壽（会員交流部会）
城戸哲郎（下関響灘ＬＣ会長）
道坂　優（下関響灘ＬＣ担当委員）
大中和子（会員交流部会）
上畠政利（さくら友の会副会長）
殿井正樹（会員交流部会長）
年光洋一（会員交流副部会長）
野口周三（広報部会長、司会）